

コロナの時代を生きる

本来なら、この空社研会報は夏休み中の発行となっていたはずですが、「今年はまだ1学期」という学校がほとんどではないでしょうか。令和2年度のスタートは、新型コロナウイルスとの戦いの始まりといっても過言ではありませんでした。これまで経験したことのない状況の中で、正解のない問題の答えを自らの力で求め、試行錯誤しながら対応する日々の連続でした。会員の皆様の奮闘に心から敬意を表します。

さて、そんな中、軽い話題でたいへん申し訳ないのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テレビドラマの制作が中断し、代わりに旧作が再放送されていました。私も、TBS系で「JIN-レジェンド」として2009年～2011年にかけて放送された番組を再編集した特別編を見る機会がありました。このお話は、江戸時代にタイムスリップした医者が感染症コレラ（コレラのこと）の治療に奮闘したり、多くの人類を救うことになる新薬ペニシリンの普及に寄与したりするエピソードを描いたもので、新型コロナウイルスに不安を覚え、一刻も早く特效薬が求められる我々にとって、非常にタイムリーに映りました。このドラマが放送されると、土日の午後帯の放送にもかかわらず高視聴率だったそうで、自らも感染する危険性を押して治療に励む主人公の姿に、全国の多くの人が共感を覚えたようです。

当然のことながら、実際に江戸時代にはこのようなヒーローは実在せず、コレラの撲滅には多くの時間と犠牲を要する事になります。しかし「伝染病は公衆衛生の母である」といわれるように、日本ではコレラ流行によって衛生観念が一気に高まることになります。幕末・明治前期の人々は、風聞に惑わされながらも、身边を清めて換気をし、外出を控えるなどの努力をして、感染の流行が過ぎ去るまで耐え忍ぶ事を学びます。現代の新型コロナウイルスとは病気の特性や医療体制、社会環境が大きく違いますが、当然ながら予防対策には多くの共通点があります。情報や予防グッズがそろそろ現代人に求められるのは、正しく恐れ、正しく対策することだろうと思います。

過去を振り返る時、その時々人々の営みがあり、人々の知恵や工夫、努力の積み重ねが時代を創ってきました。そこに、過去を学ぶ価値があるのだと私は思います。歴史を学ぶことは、過去の知識を知ること自体が重要ではありません。過去の社会システムの習熟を通して、現代の社会システムを自力で解明する力を培うことが本当の目的なのです。だからこそ、歴史を学ぶことで、現代社会に歴史を知恵として還元できるようになるのです。

前置きが長くなりましたが、私たち空知社会科教育研究会は、過去から学び、今を見つめ、これからの未来を創造するための力を、社会科を通して全ての子供たちに育てていきたいと考えています。今年度の研究主題を「空知の恵みを糧に主体的・創造的にかかわろうとする子どもの育成」と設定し、未来を切り拓く資質・能力を子供たちに育む社会科学習を実践して参ります。日本遺産に登録された「炭鉄港」に代表されるように「地域に誇りをもつ教材化」と、これまで取り組んできた「社会的事象の意味を明らかにする問題解決の学習展開」に加え、子供たちに必要とされる「知識・技能を定着させる教師の関わり」を3つの柱とし、研究に取り組む予定です。

とはいえ、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、授業における制約も多い現状が続きます。見学や調べ学習、外部人材の招聘や学校からの情報発信もままならない状況ですが、社会ではリモートによる社会・経済活動が推進される気運が高まったように、これまでの常識にとらわれない学習のあり方を模索することが、今、まさに必要です。学習指導要領に謳われているように、答えのない問いに対し、他と協力し合いながら答えを導き出すことのできる資質・能力が、子供たちにも、私たち教職員にも求められているのです。ドラマ「JIN-レジェンド」の中に、「神は超えられる試練しか与えない」という一説があります。「コロナとともにある社会」をたくましく生きる子供たちの育成に向け、空知の社会科教師が力を合わせ、実践を通して「時代の質」をまた一つ高めていきましょう。

令和元年度 空知社会科教育研究会 事業・決算報告

○ 令和元年度 事業報告 ○

平成31（令和元年度）

- 6月20日（木） 令和元年度空知社会科教育研究会総会・研修会の開催 場所：岩見沢市教育研究所
- 7月 5日（金） 日本遺産『炭鉄巷』を取り入れた授業実践（美唄市立美唄中学校 鹿糠昌弘 教諭）
- 7月26日（金） 空知教育センター「地域素材探訪（中空知）」 講師：間嶋勉 会長
- 9月21日（土） 『空知社会科ほっかいどう学祭り』開催（長沼町・夕張市・岩見沢市）
- 10月 3日（木） 研究授業『ヨーロッパの工業』（授業者：美唄市立美唄中学校 鹿糠昌弘 教諭）
- 11月12日（金） 北海道社会科教育研究大会 蘭越大会にて責任提案
提案者：岩見沢市立緑中学校 成田 照行 教諭、美唄市立美唄中学校 鹿糠 昌弘 教諭
- 1月 7日（火） 冬季研修会の実施（17名参加） 場所：岩見沢市立中央小学校
【内容】午前：実践交流、『地図帳の効果的な使い方』（講師：三国一文 様）
午後：『アイヌの歴史と文化』（講師：門脇こずえ 様）

令和2年度

- 5月16日（土） ~~北海道社会科教育連盟総会（会長・事務局長参加）~~ 紙面協議
- 6月10日（水） ~~空知管内教育研究団体連絡協議会 運営研修会 総会・研修会（事務局長参加）~~ 紙面協議

○ 令和元年度決算報告及び監査報告

【収入の部】

項目	予算	決算	増減	備考
繰越金	18,980	18,980	0	
会費	30,000	34,000	4,000	2,000円×17
雑収入	1,020	0	▲1,020	研究団体協賛金返金（今年度は積立金からなし）
貯金利子	0	0	0	
合計	50,000	52,980	2,980	

【支出の部】

項目	予算	決算	増減	備考
庶務費	15,000	9,525	▲5,475	郵送料・封筒
研究費	20,000	20,000	0	北海道社会科教育連盟 負担金
事業費	10,000	6,865	▲3,135	視察先謝礼・講師謝礼・研修会議費
広報費	5,000	5,000	0	会報印刷費等
合計	50,000	41,390	▲8,610	

収入 52,980円 - 支出 41,390円 = 11,590円
(残金 来年度へ繰り越し)

本会の会計に関する帳簿、領収書、預金通帳ほか、関係書類を厳正に監査した結果、会計の処理が適正になされ、金銭の出納状況が正確であることを認めます。

令和2年3月31日

監査 新十津川町立新十津川小学校 教頭 千石 正巳
監査 月形町立月形小学校 教頭 箕田 裕

令和2年度 空知社会科教育研究会推進計画

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、書面提案にて総会を開催し、令和元年度の事業報告および決算報告、並びに令和2年度事業計画・予算案・役員選出等が決定しましたので、お知らせします。

○ 令和2年度 空知社会科教育研究会役員 ○

顧問	佐野 博之	國學院大学北海道短期大学部
顧問	岸下 秀一	空知校長会 事務長
顧問	中井 清一	深川市教育委員会
会長	喜多 慎治	岩見沢市立中央小学校
副会長	松田 一直	美唄市立中央小学校
	加藤 康德	岩見沢市立メープル小学校
監査	千石 正巳	深川市立北新小学校
	箕田 裕	月形町立月形小学校
事務局長	鹿糠 昌弘	美唄市立美唄中学校
事務局次長	福井 雄也	深川市立一巳中学校
研究部 部長	成田 照行	岩見沢市立緑中学校
副部長	佐光 力	妹背牛町立妹背牛中学校
部員	遠藤 悦子	栗山町立栗山小学校
部員	鍋城 佳孝	砂川市立砂川中学校
部員	伊藤 淳子	滝川市立明苑中学校
部員	山本 アトム	岩見沢市立緑中学校

○ 令和2年度 研究計画 ○

研究主題

空知の恵みを糧に主体的・創造的にかかわろうとする子どもの育成

研究副主題

未来を切り拓く資質・能力を育む社会科学習

研究仮説

①地域素材を教材化することにより、子どもの学びに向かう意欲を高め、主体的・創造的に社会と関わろうとする子どもが育つであろう。

②問題解決的な学習を展開することにより、子どもの社会的事象に対する見方や考え方が深まり、主体的な学びを構築することができるであろう。

③単元や本時における身に付けさせたい知識・技能を明確にし、それを活用する場をつくることにより、確実な定着を図ることができ、主体的な学びを実現することができるであろう。



・学びの意欲を高める地域素材・教具の工夫
・社会参画意欲を高める、地域資源の発掘



・解決の必要感が生まれる導入のあり方
・動機付けや表現を促す単元構成
・多様な考えを生む学習問題
・問題解決的3つの「場」（問いを生む場、多様な考えをつなぐ場、見方や考え方を確かにする場）の構成
・「問題」「課題」「自力解決」「学び合い」「まとめ」「振り返り」の学習過程
・「見方や考え方」の変容を促す発問の工夫



・つきたい力の明確化
・単元や本時で主体的に調べる活動と知識や技能を活用する場の設定

○ 令和2年度 事業計画 ○

- 1 令和2年度 空知社会科教育研究会 研修会総会の開催
※新型コロナウイルスの感染予防のため、書面提案
- 2 研修会の開催
 - (1) 研究授業
期 日：令和2年11月5日（木） 場 所：美唄市立美唄中学校
授業者：鹿糠 昌弘 教諭 授業内容：「主権者教育（公民的分野）」
 - (2) 冬季研修会
期 日：令和2年 1月7日（火） 予 定
場 所：未 定
- 3 会報・各種案内の発行
会報No.61
- 4 各研究会への参加
○北海道社会科教育連盟 当麻大会は新型コロナウイルスの感染予防のため中止。

○ 令和2年度 会計予算 ○

【収入の部】

項 目	元年度決算	2年度予算	備 考
繰越金	18,980	11,590	
会 費	34,000	30,000	2,000×15
雑収入	0	3,410	積立基金 貯金利息 等
合 計	52,980	45,000	

【支出の部】

項 目	元年度決算	2年度予算	備 考
庶務費	9,525	10,000	用紙、封筒、郵送代、事務用品等
研究費	20,000	20,000	負担金（北海道社会科教育連盟）
事業費	6,865	10,000	視察先謝礼・研修会会議費
広報費	5,000	5,000	会報印刷費等
合 計	41,390	45,000	